２０１３／０３／１０　　礼拝メッセージ　　近藤修司　牧師

主　　題：信仰における成長１０　：　平安における成長
聖書箇所：ピリピ人への手紙　４章６－７節

パウロは「いつも喜んでいなさい」と命じました。ということは、私たち一人一人はいつも喜んで生きることができるということです。そして、これまで私たちは、喜びを持って歩み続けていくためにはどうすればいいのかを学んで来ました。みことばはそのことをしっかりと私たちに教えてくれています。また、私たちは「寛容な人になる」ことについても学んで来ました。あなたは確かに、寛容な人として生きることができると。そして、感謝なことに、救いに与ったあなたを主は日々変えて、益々、周りの人々から「確かにこの人は寛容な人だ」と言われるような人に変えられていくのです。そのためにどうのようにしていけば良いのか？どのように歩んでいけばいいのか？そのことについても私たちはもう学んで来ました。この喜びにしても寛容にしても、私たちが言えることは、みことばから私たちに示された「いつも喜んでいる人」、「寛容な人」とは、信仰において成長した人だということです。信仰において成長している人たちはまさにそのような人たちです。いつも喜んでいて、そして、本当に寛容な者として歩んでいます。なぜそう言い切れるのか？喜びも寛容も、主イエス・キリストご自身の特徴だからです。聖霊なる神はあなたをそのような人へと変えようとしておられるから、あなたは主がそうであったようにいつも喜ぶ人として、寛容な人として成長していくことができるのです。神はそのようにあなたを変えようとされているというのです。問題は、私たちがそのようになりたいと願って、神が教えてくださった通りに歩んで行くかどうかです。

今日、私たちがご一緒に見るのは、同じように、主の豊かな祝福の一つである「平安」についてです。これも同じように、信仰において成長している人たちの特徴です。平安を持って歩み続けている人々、私たちはどうすればこの平安を手に入れることができるのか？また、平安を持ち続けていくためにはどうすればいいのか？など、主の教えをご一緒に見ていきたいと思います。

Ａ．平安を得る方法　：　救われること

今話しているのは、平安を持てる時に平安を持つ、持てない時には持たないというような、この世がいう平安のことではありません。主イエス・キリストご自身が約束された「わたしは彼らにわたしの平安を与える」という神ご自身の平安です。この世のものをもっては理解することのできない、また、この世のものをもっては得ることのできない神の平安をどのようにして得ることができるのかということです。皆さんがよく知っておられることです。どうすればこの平安を得ることができるのか？簡単です。救いに与ること、救われることです。神に逆らって来た私たちが神を受け入れることによって神の平安を頂くのです。なぜなら、聖書が教える神は「平和の神」と言われているからです。このピリピ４：９でも「平和の神」と記されています。**「あなたがたが私から学び、受け、聞き、また見たことを実行しなさい。そうすれば、<u>平和の神</u>があなたがたとともにいてくださいます。」**、イザヤ書９：６では「平和の君」と呼ばれるとあります。**「ひとりのみどりごが、私たちのために生まれる。ひとりの男の子が、私たちに与えられる。主権はその肩にあり、その名は「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、<u>平和の君</u>」と呼ばれる。」**。その他にも、Ⅱコリント５：２０**「こういうわけで、私たちはキリストの使節なのです。ちょうど神が私たちを通して懇願しておられるようです。私たちは、キリストに代わって、あなたがたに願います。<u>神の和解</u>を受け入れなさい。」**、ローマ５：１**「ですから、信仰によって義と認められた私たちは、私たちの主イエス・キリストによって、<u>神との平和</u>を持っています。」**とある通りです。ですから、平和の神を受け入れることによって、私たちは神の平安を持って生きる者へと生まれ変わるということです。

ですから、イエス・キリストを信じておられない方、罪がまだ赦されていなければ、この神の祝福を頂くことはないのです。これは神の祝福なのです。そして、神と和解し救いを求める者に、神はこのすばらしい平安という祝福を与えてくださるのです。ですから、そのことは皆さんよくご存じのように、まず、救いに与らなければいけないということです。

Ｂ．平安を持ち続ける方法

さて、問題はここからです。どのようにすれば私たちは平安を保ち続けていくことができるのかということです。どうすればいつも心が平安で、そして、心から本当に満足をもって、喜びをもって歩んで行くことができるのでしょう？

１．平安を奪うもの　：　「思い煩い」

６節の初めに**「何も思い煩わないで、」**とあります。まず、パウロは「あなたから平安を奪っていくも

のがある」と言います。それはいったい何でしょう？パウロのことばを借りるなら、それはまさに**「思い煩い」**です。それがあなたから平安を奪っていくと言うのです。私たちはいろいろなことに気を揉みます。いろんなことを考えて苦しんだり、また、いろんなことで思い悩んだりします。そして、その結果、私たちの内から平安が消えていくことを私たちは経験しています。もしかすると、昨日まで喜んでいたのに、いや、先ほどまで喜んでいたのに、満たされていたのに、あることが起こって、それは人のことばかもしれないし、出来事かもしれないけれど、様々なことによって急に心が騒ぎ立って平安を失ってしまうという、そのようなことは私たちがよく経験することです。だから、私たちがいっしょに見ていきたいのは「どうすればそのようなものから自分の心を守ることができるのか？」です。どんなことがあっても、何があろうとも私たちは平安を持って歩み続けていくことができると、神はそのように言われています。ですから、どうすればいいのか？見ていきましょう。

１）その意味

「心配、懸念、いろいろと考えて苦しむ、思い悩む、心が騒ぐ」という意味があります。

２）その原因

残念ながら、私たちはいろんなことで心を騒がせる者です。そして、その結果、希望を失ってしまって、ある人たちはそれゆえに自分のいのちを断とうとすることに至ってしまいます。世界保健機関によると、世界では３０秒に１回ほどの自殺が起こっていると言います。この世界で一日に約３０００人もの人たちが自殺をしていると、非常に悲しいことです。調査によっていろいろな原因が見えて来ました。なぜ、彼らがそのように死に至ったのか？四つの原因を見ることができますが、一番多いのは「健康問題」です。二つ目は「経済、生活問題」、三つ目は「家庭問題」、四つ目は「仕事の問題」です。

私たちはいろいろなことを思って希望を失ったり、絶望を覚えたりします。例えば、私たちが病気になったとき、病気の苦しみを経験するとき、また、病気の人を介護したり看病することによって、愛する家族の死を経験することによって、また、家族の中における不和を経験する時、夫婦間、親子間の不和…、また、倒産を経験すること、様々な負債によって、人間関係の問題も、子どもだけでなく大人であってもいじめを経験すること、暴力が家庭内や様々な所でなされること、また、自分の進路がよく分からないとか、実に様々な要因を考えることができます。

でも、このように言えるのではないでしょうか？今、置かれているその現実に希望が見出せない時に私たちは平安を失ってしまう、希望を失ってしまうと。実は、このような例が聖書の中にも出て来ます。今から二つの例を皆さんにご紹介したいと思います。希望を失うことによって平安でなくなってしまって、その結果、ある人は自らの手でいのちを奪うという選択をしようとする人たちが聖書の中にも出て来るのです。

◎現実に希望が見出せないとき　⇒　平安を失い、希望を失う

例　「絶望のどん底にいた母親と息子」：列王記第１　１７：１０－１２

彼らが絶望の中にいたのはききんのために食料がなくなったからです。母親は自分の息子と一緒に自殺を図ろうとしていました。Ｉ列王記１７章に記されているエリヤと一人のやもめの話です。神が預言者エリヤにシドンに行きなさいと言います。シドンとは今のレバノンの第三の町です。そこに行くようにと言うのです。エリヤはそこに出て行くのですが、そこでたきぎを拾い集めている一人の女性に出会います。エリヤは彼女に声をかけてこう言うのです。１０節**「…「水差しにほんの少しの水を持って来て、私に飲ませてください。」**、１１－１２節**「彼女が取りに行こうとすると、彼は彼女を呼んで言った。「一口のパンも持って来てください。」:12 彼女は答えた。「あなたの神、【主】は生きておられます。私は焼いたパンを持っておりません。ただ、かめの中に一握りの粉と、つぼにほんの少しの油があるだけです。ご覧のとおり、二、三本のたきぎを集め、帰って行って、私と私の息子のためにそれを調理し、それを食べて、死のうとしているのです。」**と、状況はよく分かります。かめの中にはほんの一握りの粉しか残っていないし、それを焼くための油も一回で使い切ってしまう分しかない、これから先どうなるのだろう？我々はどのようにして生きていくことができるのだろう？食べ物がない…、そこで、彼女は最後の食事を取って死のうと考えたのです。希望がなかったのです。どのように対処すればいいのか分からない、解決の糸口がない、絶望の中にいたから彼女はそのような選択を考えたのです。

◎勝ち目のない敵との戦いに直面したとき　⇒　平安を失い、恐れを抱く

例　「人間的に勝ち目のない敵との戦いを強いられた兵士たち」：
サムエル記第１　１７：８－１１、２４

どのように考えても勝ち目がない戦い、その戦いに直面した時に人々は平安を失いました。そして、恐れを抱きました。皆さんよくご存じのダビデとゴリヤテの話です。Ｉサムエル１７章にある記事です。ペリシテ人がイスラエルに戦いを挑んで来ました。そして、ペリシテ人の一人の代表がイスラエルの民

の前に立つのです。その名前はゴリヤテでした。身の丈約３メートル、巨人です。しかも、彼がその身にまとっている鎧は約５７キロ、大人一人分位の重さの鎧です。そして、このゴリヤテがイスラエルの民に叫ぶのです。「だれかひとりを選べ。おれと戦っておれを負かしたら、おれたちがおまえらの奴隷になろう。しかし、おれが勝ってそいつを殺せば、おまえらがおれたちの奴隷となるのだ。」と。Ｉサムエル１７：１１に**「サウルとイスラエルのすべては、このペリシテ人のことばを聞いたとき、意気消沈し、非常に恐れた。」**とあります。情景が描けますね。「どのようにしてこの巨人に勝つのか！我々民族のすべてが我々が選ぶひとりの人物の肩にかかっている。もし、彼が負けたら我々はみなこのペリシテ人の奴隷にならなければいけない！」と、大変な恐れでした。どう見ても勝ち目がない。ですから、１７：２４には**「イスラエルの人はみな、この男を見たとき、その前を逃げて、非常に恐れた。」**と書かれています。勝ち目がないと思える敵と遭遇したときに我々は希望を失ってしまいます。確かに、こうして見た時に、彼らは平安も希望も失っていました。

私たちも、実際に身の丈３メートルもの人物に会うことはなくても、このような敵に遭遇することがなくても、人生の中ではいろんな敵に遭遇するではないですか？いろんなことに遭遇して「これはもう無理だ。不可能だ。絶対にこの状況を改善することなど不可能だ。」と、そのように私たちの力ではどうにもならない状況で私たちの心はぐらつくのです。ちょうど彼らがそうだったように…。だから、結局、私たちの問題は自分の力で何とかしようとすることです。そして、自分の力ではどうすることもできない、どうしたらいいのか分からないという状況に直面した時に、私たちは希望を失ってしまうのです。まさに、今我々が見て来たように、「もう粉が尽きる、油がなくなってしまう。余りにも巨大な敵だ、無理だ。勝ち目がない。これから先何を食べていけばいいのだろう？」と、このように自分の力ではどうにもならない状況に遭遇したとき、自分の力で解決できない問題に出会ったとき、我々は希望を失います。皆さんは今そんなことに直面していませんか？それは病気かもしれない、どうすることもできない。経済的な問題かもしれない、どうすることもできない。そのように自分ではどうすることもできないような敵に遭遇した時に、私たちも悲しいことに、信仰者である私たちもこの平安を失ってしまうのです。心は騒ぐのです。

ソロモンはこのようなことを言います。箴言１２：２５**「心に不安のある人は沈み、親切なことばは人を喜ばす。」**、心に不安があるとその人は沈む、その人の心は沈んでいくと言うのです。ですから、正直に自分を見るなら、皆さんにもきっとあることでしょう、平安を失ってしまうとき、心が騒ぐとき、どうしていいのか分からなくなるとき、希望が見えなくなって失望を覚えるときが…。感謝なことに、聖書は私たちにどうすればいいのかを教えてくれています。そのような中にあっても、あなたが神の与えてくださった平安を持って歩み続けて行くためにどうすればいいのかを教えてくれています。

２．平安を保ち続ける方法

もう一度、ピリピ４：６を見てください。**「何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。」**。

１）否定的命令　：　「思い煩うな」　⇒　するべきでないこと

パウロはまず**「何も思い煩わないで」**と言います。最初に禁止の命令が記されています。～をしてはいけないということです。今すぐに思い煩うことを止めるようにと、それが最初の命令です。

２）肯定的命令　：　祈り　⇒　するべきこと

そして今度は、肯定的な命令に移って行きます。**「あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。」**、思い煩うことを止めてこうしなさいと言うのです。

（１）あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい

「願い事をもって」とは祈りのことです、祈りをもって神にすべてのことを知っていただきなさいと言うのです。

◎「願い」＝ここで言われている「願い」とは、特別な必要を抱える時に、内側からこみ上げて来るような特別な願いのことです。切羽詰まったような状況で、内側から出て来る願いのことです。なぜなら、そのようなことが私たちの心を乱すからです。そのような時に私たちはどうするのか？

◎「知っていただく」＝パウロが言うことは「主にすべて知っていただくこと」です。神の前にすべてのことを持っていきなさいと言うのです。そうしなければ神が分からないからではありません。私たちの祈りの中ではよく神に一生懸命すべての状況を説明する方がいますが、説明する必要はないのです。神はすべてご存じだからです。でも、あなたの心の中にあるいろいろな葛藤を主の前に持っていけばいいと言うのです。ここまでは皆さんもよくやっておられることと思います。私たちはいろんな問題を抱えた時に、その問題が現実に大きければ大きいほど私たちの祈りに影響を及ぼして、普段以上に熱心に

祈ります。私たちの抱えている課題が余りにも大き過ぎてどうすることもできない、自分の力でどうすることもできないという問題に遭遇した時に、私たちは一生懸命祈ろうとします。しかし、残念なことは、それが終わるとすぐに祈りを忘れてしまうことです。この悪い習慣を何とか直さなければいけないのですが…。

私たちは一生懸命に祈ります。例えば、社会にあって「あの人さえいなければいいのに…」と、そうすると「神さま、どうかその人を遠ざけてください」と願います。今、苦しい環境に置かれているとするなら「主よ、どうぞこの環境を改善してください」と願い、病気なら「神さま、何とかこの病気を癒してください」、「今持っているこの悲しみを癒してください」、「もう介護や看護で疲れています。どうぞ、この疲れから解放してください」、「将来のことを考えるともう不安で仕方ないです。どうぞこの不安を払拭してください」と、恐らく、多くの皆さんがこれに似たようなことを一生懸命祈り続けて来られていると思います。しかし、問題はその祈りを通してあなた自身が平安を持っているかどうかです。パウロが私たちに教えていることは、あなたがどのようにすれば神から与えられた平安を持ち続けていくことが出来るのかということです。そして、パウロはそれを神のもとに持っていきなさいと言います。それによってあなたが平安に満たされ続けて行くためにです。しかし、一生懸命祈っていても熱心に祈っていても、心は平安ではなく、逆に不安が増し加わっていったり、益々心が思い煩いに満たされたりします。「一生懸命祈っているのに、願い事をこんなに神の前に伝えているのに、なぜ、自分の心は平安ではないのか？」と。もし、そのようなことで悩んでいるなら、神が私たちに教えようとしておられることを見てください。

（２）「感謝をもって」

６節でパウロはこのように教えました。**「何も思い煩らないで、あらゆるばあいに、<u>感謝をもって</u>…」**と。これがすべてのカギなのです。「感謝をもってあなたの願い事をすべて神に知っていただきなさい」と言うのです。確かに、今まであなたは、ご自分が抱えている願い事を洗いざらい主の前に祈って来たかもしれません。しかし、問題は、あなたが祈り続けているその問題、あなたを苦しめている問題、解放されたいと思っている問題、その問題を主に感謝したかどうかなのです。もう一度繰り返します。大切なところだからです。あなたを苦しめていること、あなたを悩ませていること、あなたを不安に陥れること、あなたから希望を奪っていくこと、あなたが脱出を求めているその問題が与えられたことを主に感謝しているかどうかです。パウロがここで命じていることはそのことなのです。私たちは私たちを苦しめる問題を感謝しないのです。しかし、パウロは「あなたを苦しめる、あなたを間違った方向に導いていってしまう、つまり、あなたから平安を奪ってしまう、あなたを悩ませるその問題自体を神の前に感謝しなさい」と言うのです。「神さま、この病いをくださって感謝します」と、そのような証をこの講壇から私は何人もの人たちから聞いて来ました。「病いを得て、そして、この苦しみに遭ったことは私にとって幸いでした。」という人たちの証を聞いて来たではないですか。

私たちは私たちを苦しめるその問題を感謝したくありません。だから、いつまで経っても平安を持って歩めないのです。主によって贖われた私たち信仰者一人一人は「主よ、この問題を感謝します。この病いを感謝します。今このような状況に置いてくださっていることを感謝します。大変苦しい状況に置かれていること、神さま、いつも私を悩ませるあの人を置いてくださったこと、この人を置いてくださったことを感謝します。」と言うのです。このように言うと、多くの皆さんは「そんなことは無理です。できません。」とそのように思い、そのように言われることでしょう。皆さん、聖書が言っている「感謝」とはこの世の中が言う「感謝」とは違うのです。もしかすると、今まであなたが持ち続けてきた感謝とも違うのです。みことばが教える「感謝」というのは「主なる神への信頼の告白」なのです。私たちがいろいろな問題を抱えながら、その中にあって神に対して感謝するというのは、確かに、苦しいけれども、辛いけれども、悲しいけれども、希望を失いそうになるけれども、でも「私はあなたを信頼しています」というその告白なのです。

◎神の約束を知っている＝皆さんは神の約束を知っています。例えば、コリント人への手紙第一の中で神は試練に会わせるということを記しています。１０：１３**「あなたがたの会った試練はみな人の知らないものではありません。」**と。でも**「神は真実な方ですから、あなたがたを、耐えられないほどの試練に会わせることはなさいません。むしろ、耐えられるように、試練とともに脱出の道も備えてくださいます。」**とあります。つまり、みことばが言っていることは、あなたが経験している試練は耐えることができる試練だということです。もう一つは、耐えられるように脱出の道を備えてくださるということです。神はこのように約束を与えたのです。でも、振り返ってみてください。なぜ、私たちは希望を失ってしまうのでしょう？それは暗やみの中で脱出の道が見えないからです。どうしていけばいいか分からないからでしょう。でも、聖書は私たちに教えています。神は耐えられない試練を与えないし、脱出の道を必ず備えてくれ

ると。問題は私たちがなぜこの約束に立たないかです。この約束を忘れるから我々は希望を失うのです。どうしていいか分からない、確かに、我々には分かりませんが神には分かっているのです。だから、神を信頼するのです。だから、感謝するのです。
◎神の目的を知っている＝私たちが何度も見て来たように、神はどのような目的をもって私たちに試練を与えておられるのか、私たちは知っています。すべてのことを働かせて益とするためだと言います。ローマ８：２８**「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。」**。私たちの信仰が成長するために神はすべてのことを為さっていると知っているのです。それでいながら、なぜ、私たちは「この問題は私にとってプラスではない。」と言い切るのでしょう。「この問題さえなければ私はもっと幸せだ。もっと満足をもって…」と言うのでしょう。私たちが知っている聖書のみことばは、神は私たちを愛するゆえに、私たちの信仰が成長するためにこのレッスンを与えておられると教えているのに、「神さま、どうぞこの問題を除いてください」と願うのでしょう？どうして私たちはいつまで経っても、これだけ学んでいるのに「主よ、あなたがくださったレッスンを感謝します。どうぞ、しっかり学ぶべきことを学んであなたにあって成長しますように。」と祈らないでしょう？皆さん、気付かれましたか？今見たみことばはよく知っているのです。神の約束も知っているし、神の為しておられるすべてのことの目的も知っているのです。
◎神の御力を知っている＝そして、もう一つ言うなら、神の御力も知っているのです。神の助けは全能なる助けであって、どんなことでもできるという信仰を私たちは持っているのです。ピリピ４：１３にそのように記されています。**「私は、私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできるのです。」**と。それなのになぜ私たちは「できない」と言うのでしょう？
　私たちクリスチャンの問題が見えませんか？みことばを聞いてはいるけれど実践しないのです。聞いていることに満足しているのです。何度も何度もそのことを繰り返してここで話しています。実践しないことには何も起こらないからです。ただ聞くだけの者なら、信仰は成長するどころか停滞し、ひょっとしたら衰退して行くのです。信仰の年数は長くても、信仰においていつまでも赤子でいるのはなぜですか？みことばを実践しないからです。今私たちが見て来ていることは「平安を持って生きることができる」ということです。でも、平安を持って生き続けるためには、すべてのことをあなたの益のためにしてくださっている神に信頼を置いて、その問題を感謝する人になりなさいと言われます。あなたが思い巡らしている問題は、実はあなたのためであり、神があなたを愛するゆえに敢えてあなたに与えてくださっているレッスンなのです。Ｉペテロ５：１０**「あらゆる恵みに満ちた神、すなわち、あなたがたをキリストにあってその永遠の栄光の中に招き入れてくださった神ご自身が、あなたがたをしばらくの苦しみのあとで完全にし、堅く立たせ、強くし、不動の者としてくださいます。」**、ここに理由が書かれています。なぜ、あなたが今そのような苦しみに遭っているのか？それはあなたを愛する神がそれらすべてをあなたに与え、あなたをより信仰において成長し、そして、より完全な者に変えていくためです。ですから、私たち信仰者の一番大きな歩みのカギは「主に信頼する」ということです。神への信頼がカギなのです。
　どうすれば喜びを持って歩み続けることができるのか？主に信頼することです。主に信頼を置いて主の前を正しく歩み続けていくことです。どのようにして寛容な人に変えられていくのですか？主に信頼し主に従い続けていくことです。みことばが言うのは、あなたが平安を持って歩み続けていくために必要なことは、主を信頼して主に従い続けていくことです。主はちゃんと最善な計画をもって、あなたが成長するという計画をもって、すべてのことを導いておられます。ですから、そのために私たちは主なる神がどのような方であるかを忘れてはならないのです。
例　彼らがどのようにして問題に勝利したか？
◎エリヤとひとりのやもめ＝先ほど話ししたひとりのやもめのことを思い出してください。もう粉がなくなろうとしている、パンを焼く油もない、息子と一緒に自殺を図ろうとしていたこのやもめ、彼女が**「あなたの神、【主】は生きておられます。私は焼いたパンを持っておりません。ただ、かめの中に一握りの粉と、つぼにほんの少しの油があるだけです。ご覧のとおり、二、三本のたきぎを集め、帰って行って、私と私の息子のためにそれを調理し、それを食べて、死のうとしているのです。」**（Ｉ列王記１７：１２）と言った時に、エリヤは彼女にこう言います。１７：１３**「恐れてはいけません。行って、あなたが言ったようにしなさい。しかし、まず、私のためにそれで小さなパン菓子を作り、私のところに持って来なさい。それから後に、あなたとあなたの子どものために作りなさい。」**と。彼女はきっとこのように言うこともできたでしょう。「ちょっとお話してもいいですか？さっきも言ったように、あなたにパン菓子を作るだけの粉はありません。もう自分たちだけが食べる分しかありません。」とエリヤの言うことに反論するができました。でも、彼女は聞き入るのです。エリヤは続けてこう言いました。１４－１６節**「イスラエルの神、【主】**

が、こう仰せられるからです。『【主】が地の上に雨を降らせる日までは、そのかめの粉は尽きず、そのつぼの油はなくならない。』」、彼女はそれを聞いて何をしたでしょう？**「:15 彼女は行って、エリヤのことばのとおりにした。彼女と彼、および彼女の家族も、長い間それを食べた。:16 エリヤを通して言われた【主】のことばのとおり、かめの粉は尽きず、つぼの油はなくならなかった。」**、これがあなたの神です。これが私たちの神です。人間的には不可能と思えること、確かに、絶望と思っても、神には不可能なことはないのです。そのようなことをもって神がどんなに力のある方であるかを示されたのです。彼女がしたことは何でしたか？神が言われたことを信じたのです。そして、神は彼女を祝したのです。

◎ダビデとゴリヤテ＝ダビデとゴリヤテの話を思い出してください。イスラエルの人々はこのゴリヤテを見て人間的に見て勝ち目がないと思って恐れました。兵士たちはみな言ったでしょう。「おれはいやだ。こんな巨人と戦って勝ち目なんかあるはずがない。」と。幼かったダビデはゴリヤテに対してこのように言うのです。Ⅰサムエル１７：４５－４７**「おまえは、剣と、槍と、投げ槍を持って、私に向かって来るが、私は、おまえがなぶったイスラエルの戦陣の神、万軍の【主】の御名によって、おまえに立ち向かうのだ。:46 きょう、【主】はおまえを私の手に渡される。私はおまえを打って、おまえの頭を胴体から離し、きょう、ペリシテ人の陣営のしかばねを、空の鳥、地の獣に与える。すべての国は、イスラエルに神がおられることを知るであろう。:47 この全集団も、【主】が剣や槍を使わずに救うことを知るであろう。この戦いは【主】の戦いだ。主はおまえたちをわれわれの手に渡される。」**と。そして、ご存じのように、石ころをもってゴリヤテを殺します。これがあなたの神なのです。

主が私たちに教え続けてくださっていることは、主に信頼できるというすばらしい祝福を頂いていながら、愚かにも、主に信頼しないで自分の知恵や力でもってすべてのことを解決しようとするから不安になる、平安を失うということです。主にあってのみ私たちは勝利することができると言います。ですから、次のことを覚えてください。「思い煩いは主への信頼を失ったことが原因である」と。主と主の約束への信頼を失うことによってあなたは心が騒ぐことになったのです。だから、もし、あなたの心が騒いでいるなら自分の心にこう言ってください。「たましいよ。おまえはいったい何に動揺しているのだ？私には全能の神がいる、この方に信頼を置いて私は生きていくのだ。」と。その時に私たちには神の祝福があるのです。

ですから、私たちはどのような神を信じたのか、そのことを覚えて、そして、神の前にすべての願い事を持っていくのです。パウロはコロサイ４：２にこのように記しています。**「目をさまして、感謝をもって、たゆみなく祈りなさい。」**と。今、私たちが見て来たことをパウロはこのように言うのです。「感謝をもって、主の前に祈り続けていきなさい」と。そして、もし、あなたがそのようにするならば、その問題が与えられたことを神に感謝して歩むなら、次のような結果が伴うと言うのです。

３．主の約束　：　正しい選択のもたらす結果

神の約束が７節に記されています。ピリピ４：７**「そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。」**、そうすれば、あなたの心は守られるということです。

１）神の平安を得る

もし、あなたが６節で見たように感謝をもって主の前に願い事を持っていくなら、あなたは神の平安を得ると神は約束されるのです。**「人のすべての考えにまさる神の平安」**とあります。つまり、神の平安というのは、私たち人間のすべての考えにまさるものであり、すべてを超越されたものだと言います。だから、この世のいかなるものをもっても得ることのできない平安なのです。ということは、皆さん、あなたがこの神からの平安を持って生きていくことによって、間違いなく周りの人たちは「なぜ、あなたはこんな中で平安を持って生きているのですか？」と不思議がることでしょう。そうして、神ご自身のすばらしさがあなたを通して世に証されていくのです。だから、私たちはこの平安を失うことなく、しっかりと持ち続けていくことが必要なのです。Ⅱテサロニケ３：１６には**「どうか、平和の主ご自身が、どんな場合にも、いつも、あなたがたに平和を与えてくださいますように。」**と書かれています。そのことは可能なのです。私たちはどんな時にも平安を持って生きることができるのです。

２）神の平安を失わない

さて、この平安を神は約束してくださっていますが、同時に、あなたは与えられたその平安を失うことはないと約束されています。７節に**「神の平安が、」**とあります。神の平安とは**「人のすべての考えにまさる」**ものと説明されています。この神の平安が為すことは**「あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。」**です。**「心と思い」**は区別する必要はありません。パウロは私たちの内側のすべてを指してそのように言っているのです。なぜなら、そこが影響を受けることによって先ほどから見ているように、「思い煩う」という間違った結果をもたらしてしまうからです。だから、私たちの心が

いつも正しくあり続けるために、私たちは自分の心と思いを正しく保ち続けていくことが必要なのです。私たちの心と思いからはいろいろな考えや感情、意志や理性などが出て来るのです。その部分をしっかり守るようにということです。７節をもう一度見てください。だれがあなたの内側を守ると教えていますか？みことばは**「神の平安が…守ってくれます。」**と言います。神はこのような約束をくださったのです。あなたの内側の部分を神の平安が守ると。この「守る」ということばは軍隊用語です。ちょうど、兵士が門の所に立って町を守るその姿を描いてください。その意味を持ったことばが使われています。Ⅱコリント１１：３２には**「ダマスコではアレタ王の代官が、私を捕らえようとしてダマスコの町を監視しました。」**と書かれています。神の平安があなたの心のところに立って、あなたの心に惑わすものが入って来ないように守ってくれているそのような姿です。これが神の約束なのです。あなたが主の前を正しく感謝しながら歩むなら、問題を感謝しながら生きていくなら、神はあなたの心をあなたの思いをあなたの内側をしっかりと守ってくれると言うのです。神の平安をもってあなたの心は守られるということです。Ⅰペテロ１：５に**「あなたがたは、信仰により、神の御力によって守られており、終わりのときに現されるように用意されている救いをいただくのです。」**と書かれている通りです。

もう一つ、７節にパウロは**「あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって」**と記しています。あなたの心を平安で保ち続けていくこと、それは神の働きです。イエス・キリストがその働きをしてくださるのです。そのことをパウロは明確に語っています。主イエス・キリストがあなたの心を守るのだと。だから、詩篇９４：１９で著者はこのように言っています。**「私のうちで、思い煩いが増すときに、あなたの慰めが、私のたましいを喜ばしてくださいますように。」**と。いろんなことで心騒ぐ時、著者は自分で解決しようとはしないで神に助けを求めたのです。神が働いてくださるときに、私の心はこのような状況の中にあって喜ぶことができることを知っていたからです。

今、私たちが見て来たように、神の与えてくださった平安は、神によって与えられ、神によって守られ続けていくのです。だから、私たちの責任はこの神の約束を信じ、神を信頼してこの方に従い続けて行くことです。喜びもそうだったし、寛容もそうだったし、そして、この平安も同じようにして歩めとパウロは教えるのです。全知全能の神、父なる神があなたのお父さんだと言います。この方があなたを守り、養い、助け、励まし、導き続けてくださるのです。あなたが自分自身に問わなければいけないことは次のことです。「この神を私は信頼して生きていくかどうか？」です。神がどのようなお方で何をされるのかはもう教えてくださったのです。問題は、その真理を聞いたあなたがそれを信じてそれに信頼を置いて生きていくかどうかです。そのことをあなたは自らに問わなければいけないのです。

残念なことは、あなたは心配すべきでないことを心配し、心配すべきことを心配していないことです。よく考えてください。心配すべきでないことは「どうすれば長生きするか、どうすれば豊かな生活を送ることができるか、どうすれば満足を得ることができるか、どうすれば幸せになるか？」など、私自身に、また、周りに起こっている出来事です。神は「そのようなものは心配しなくてもいい。」と言われます。あなたが心配しなければいけないことは「主を喜ばせるにはどうしたらいいのか、主が栄光を現わし続けていくために私は何をしたらいいのか？」です。あなたが心配しなければいけないことは「主に従い続けること」です。この心配すべきことを心配して神の前を信頼を持って正しく歩み続けていくなら、神がその祝福をもってあなたを祝し続けてくださるのです。

今日、私たちは聖歌４７１番を讃美しました。フラシンシス・ハーバガルという姉妹がこの曲を書きました。「完全な平安」というのが元々のタイトルだったようです。彼女は４３歳で主のもとに召されていきますが、その人生はまさにこの平安を持って歩んだ人生だったと言われています。その歌詞は、「神のたもう安けさは　川のごとく流れきて　この心を打ち浸し　世にあること忘れしむ/　来なば来たれ試みよ　襲いかかれ悪しきもの　主に隠れしたましいの　などて揺らぐことやある/　主はまことにましませば　み約束にたがいなし　主の恵みの振る舞いに　わが心は満ち足りぬ/　主の手にあるたましいを　揺り動かすものあらじ」と、彼女がこの詩を書いたときこのように書き加えています。３番の歌詞ですが「すべての喜び、試練は天から与えられる。」と。彼女は分かっていたのです。すべては神から与えるものであることを。すべてのことを我々のために為しておられる主を完全に信頼するなら、主がすべてにおいて正しいことをその人は見出すでしょうと。そして、コーラスの部分は「主なる神に留まれ、心は完全に祝される　主が約束されたように完全な平安と休息を見出す。」と言います。ハーバガルもちゃんと分かっていたのです。神の上にしっかりと立つことです。神の約束に立つことです。神を信頼することです。そのときに神はあなたを祝し、そして、神が約束された完全な平安と休息、安らぎを持って生きることができると。

信仰者の皆さん、この祝福をあなたは逃していませんか？この祝福はあなたに与えられた祝福なのです。逃していませんか？もしそうなら、もう一度、主に信頼を置き直して従い続けることです。「私は

あなたを信頼します。あなたの約束を信頼します。あなたを信頼します。どんな時でもすべてのことを感謝してあなたに従って行きます。」と、その時に主はこの約束をあなたのうちになしてくださるのです。そのようにして私たちは生きるのです。

《考えましょう》
１．人はどうして、思い煩うのでしょうか？その理由をあなたのことばで記してください。
２．「思い煩い」によって、心が支配され続けないためにはどうすれば良いと、パウロは教えてくれましたか？
３．どのような祝福が主によって約束されていますか？
４．あなたは今日からどのように生きていく決心をなさいましたか？